入稿するときのページ数は8ページ、16ページなどの単位にしたほうがいいのはどうして?

本を作るときには何ページの本にするかという構想を練ると思いますが、まず本には「表紙」と「本文」があります。表紙は 1 枚続きの厚めの用紙にすることが多く、表紙と裏表紙には印刷し、内側になる部分(表 23 といいます)は一般的には印刷しませんが合計して 4 ページ分と数えています。

そして本文はこれから説明するように8または16ページ単位で印刷していますので、この倍数になるようにすることをお薦めしています。本の場合、本文は両面2ページ分で1枚ですが、印刷するときは大きな紙にたくさんのページを並べて大きい印刷機で印刷しています。

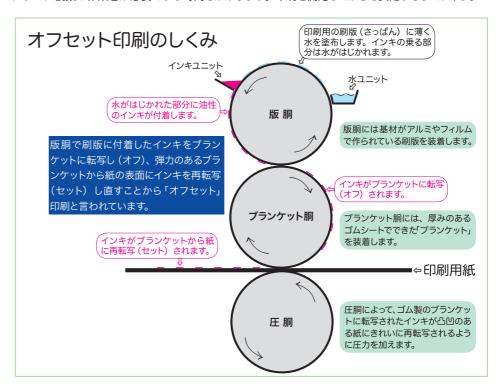
印刷によく使われている「オフセット印刷機」では A4 サイズ・A5 サイズの本では A2 ワイドサイズの用紙(菊半裁という用紙規格)を使用しています。同人誌に多い B5 サイズや小さめの B6 サイズ・文庫新書サイズの本では B3 ワイドサイズの用紙(四六判 4 裁という用紙規格)を使用しています。印刷するときはこの印刷機に通せる大きいサイズの用紙にたくさんのページを多面付して印刷できるため A5 の本なら両面で 16 ページ分まとめて効率的に印刷することができるのです。

オフセット印刷では、下の【図解】のように水と油の化学反応を応用した技術をベースにしているため、いきなり 1 枚目からきれいに印刷することができません。1 セット数千円する 「刷版」 という印刷原板を製版機という機械でまず作成し、これを印刷機にセットします。ここまでにすでに複数の作業者が必要ですし時間もかかります。印刷を開始してからも安定するまでに、ちょっ

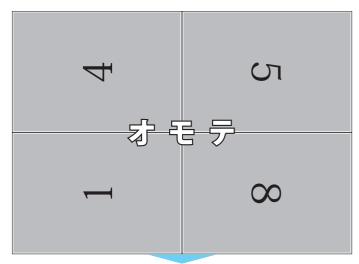
ともったいないように思われるかもしれませんが、数百枚の用紙を使って濃度などの調整を行ないます。たとえ仕上がり1枚のための印刷でも用紙は300枚以上使用することもあります。しかし安定してからは1秒あたり3~4枚というスピードで16ページ分を一気に印刷できますし、カウント料金なども発生しないため、部数の多い場合にはとても優位性のある印刷方法です。

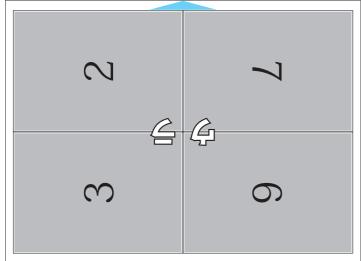
先ほど触れた「刷版」1 セットに数千円の費用がかかってしまいますので、なるべく大きいサイズの用紙にたくさんのページを同時にレイアウトすることでコストを抑える必要があります。そのため本を入稿するページ数の単位が B5・A4 サイズ = 8 ページ単位、B6・A5・文庫新書 = 16 ページ単位のようになっているのです。

このページの単位から外れてしまうと、同じページを2箇所にレイアウトして半分の枚数で印刷することになりますが、先ほど触れたように刷版代の数千円と調整に使う枚数は変わりませんので結果的に割高になってしまいます。さらに端数のページが出てしまうとこのような方法もできなくなり、結果的に端数ページ部分は白紙のまま印刷機を通し、製本する前に白紙ページを取り除く作業が必要となり、通常の製本作業よりもむしろ手間がかかってしまうことになるのです。



B5 サイズの本の面付





B3 ワイドサイズ (四六判 4 裁) の用紙に図のようにオモテウラで8ページ分同時に面付してから印刷します。

A5 サイズの本の面付

| 1 | 4 | <u>9</u> | 12 |
|---|---|----------|----|
| 8 | S | 91 | 13 |

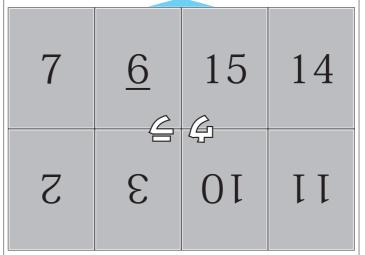
B5 / A4 サイズの本は 8 ページ 単位、A5 以下のサイズの本は 16 ページ単位で 1 枚の用紙に印 刷されます。

印刷に使用する印刷原板(刷版) も効率的に利用できています。

言い換えれば、本のページ単価 が最も効率的に下げられる方法 でもあります。

←用紙が反転する部分

オモテ・ウラの真ん中の三 角記号のところで印刷機内 で用紙がひっくり返されて 両面印刷になります。



A2 ワイドサイズ(菊半裁)の用紙に図のようにオモテウラで 16 ページ分同時に面付してから印刷します。

本の原価を気にしなければ次のページで紹介するような、B5/A4=4ページ単位、A5以下のサイズ=8ページ単位で作業を行うことになってしまいます。

8ページまたは16ページ単位ではないときは...

オフセットの料金表でも B5/A4=4 ページ単位、A5 以下 =8 ページが表示されていると思いますが、それはこのような面付で途中のページ数を補っています。

しかし、使用する刷版の枚数は1つ上のページ単位同じになってしまうため、刷版代8/16ページの倍数と同じ料金になります。また印刷調整に使う用紙の枚数も変わりませんので結果的に割高になってしまいます。

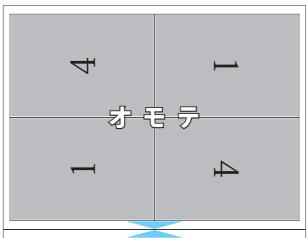
このようなことにならないように、用いられているのが「台割表 (だいわりひょう)」です。台割表というリストを作成することで、たとえば章と章の切り替わりに白紙ページを入れて間合い取ったりして、本のページ構成をうまく印刷単位のページ数に割り当てていきます。

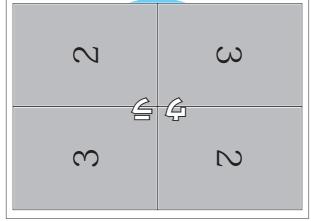
B5で2ページ単位、A5で4ページ単位など、さらに端数のページが出てしまうとこのような方法もできなくなり、結果的に端数ページ部分は白紙のまま印刷機を通し、製本する前に白紙ページを取り除く作業が必要となり、通常の製本作業よりもむしろ手間がかかってしまうことになるのです。

たとえば、総ページ数 20 ページの本では表紙 4 + 本文 16 ページです。同様に総ページ数 36 ページの本では表紙 4 + 本文 32ページとなり、8 または 16 の倍数になっています。

しかし総ページ数 22 ページの本では表紙 4 + 本文 18 ページになってしまい、コスト的には 36 ページの本とあまり変わらなくなってしまいます。

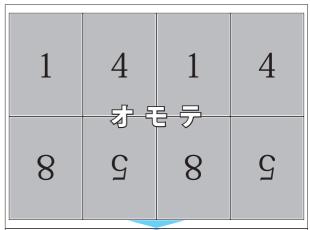
B5 サイズの本の場合

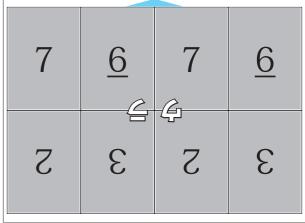




同じページを2箇所にレイアウトして半分の枚数で印刷します。 B5/A4 サイズの本では両面で8ページなので、4ページ分を2箇所にレイアウトして印刷します。

A5 サイズの本の場合





同じページを2箇所にレイアウトして半分の枚数で印刷します。 A5/B6/文庫新書サイズの本では、両面で16ページになるので、8ページ分を2箇所にレイアウトして印刷します。

オンデマンド 印刷の本: 製本はほぼオフセットと同様の手順で行ないます(製本方法で若干異なりますが...)

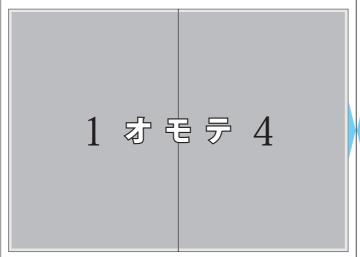
オンデマンド印刷機は通せる紙のサイズがオフセットの半分くらいになります。そのため B5/A4 サイズは 8 ページ単位、A5 以下のサイズは 8 ページ単位で面付しています。 オフセットと異なり、通常のオンデマンド印刷では長辺通しで用紙を反転しています。

中綴じ、無線綴じにかかわらずこのページ数の単位が最小になります。

端数ページ以下がある場合、白紙印刷の後、取り除くことになってしまいます。

B5 本は四六判 8 裁という B4 ワイドサイズの用紙に、A4 本は主に菊4 裁という A3 ワイドサイズの用紙に 4ページ単位で印刷しています。

B5・A4サイズの 本の面付 ⇒





A 5 サイズ 以下 の本の面付 ⇒

A5・B6 本は主に菊判 4 裁という A3 ワイドサイズの用紙に、文庫・新書は四六判 8 裁という B4 ワイドサイズの用紙に 8 ページ単位で印刷しています。

オフセット印刷・オンデマンド印刷とも、フルカラーロ絵料金が多ページになると割高になるのはこのような面付の事情によります。

